

#### 4 課題研究

##### (1) 高1「地域課題研究」の実践

- 授業時間 総合的な学習の時間（1単位、木曜7時限）  
内容によっては、CTP（木曜6限）と合わせて、2コマ連続で実施
- 対象 高校1年生
- 目標 「田中正造型」グローバルリーダーの資質・能力の育成
- 授業内容

##### ①オリエンテーション1

- a 目的 1年間のSGH活動の流れを理解する。
- b 日時 平成31(2019)年4月11日（木）6、7限目
- c 内容 パワポを使ってSGH、課題研究、CTP(Critical Thinking Program)のガイダンスを行った。1年におよぶ地域課題研究のマップを示し、ロールモデルの田中正造翁の解説を行い、昨年的一年生の良い例などを示す。
- d 成果 高校一年生がこの1年間でどのような活動をして行くのか年間スケジュールを把握し、大きな方向性や意義について理解させることができた。

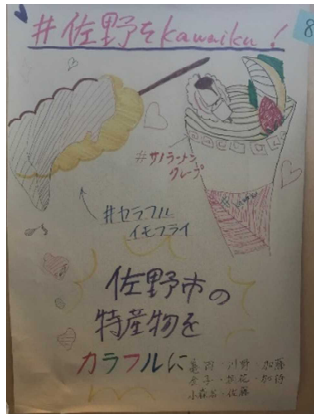
##### ②オープニングセレモニー ～SGH講演会～

- a 目的 SGH活動の目的意識を高める。
- b 日時 平成31(2019)年4月15日（月）6、7限目
- c 内容 ・SGH活動報告  
・「海外グローバル研修」（カナダ）報告  
・講演「今、アジアで何が起きているのか ～グローバル化のリアルを考える～」 東京海洋大学教授 小松俊明先生
- d 成果 先輩たちがどのような活動をしているのか知ることができ、また講演ではグローバル社会への心構えを学ぶことができた。

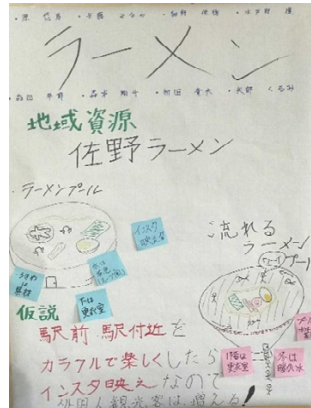
##### ③SGHリレー講座 ～フィールドワーク入門～

- a 目的 地域課題研究におけるフィールドワークの基礎を理解する。
- b 日時 平成31(2019)年4月25日（木）6、7限目
- c 内容 東洋大学国際学部国際地域学科助教の柏崎梢氏を講師に招き、ワークショップを行った。8人のグループで、「佐野の地域資源を活用して移住者または外国人観光客を増やす」をテーマに、グループとしてどのような調査をする必要があるかを考えた後、ポスターセッションを行う。
- ア イントロダクション
- イ グループワーク
- 「佐野の地域資源を活用して移住者または外国人観光客を増やす」をテーマに、グループとして提案を行うためにどのような調査をする必要があるかを考える。
- ウ ポスターセッション
- グループメンバーを2つにわけ、20分交代でポスターの説明を行う。
- エ まとめ
- 評価表を記入する。

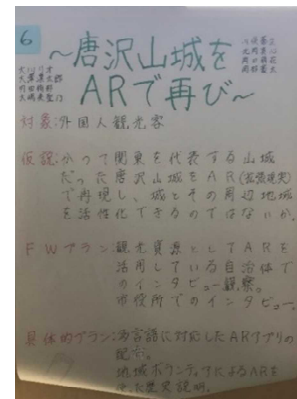
- d 成果 地域課題研究に不可欠なフィールドワークを行うための考え方の基礎を学び、シンプルではあるが仮説を立て何を調査したらよいかを一度経験することができた。また、グループでのポスターセッションを経験することができた。



#佐野を Kawaii!



ラーメン



~唐沢山城を AR で再び~

④リレー講座「地域リーダーズ・シンポジウム」

- a 目的 地域の様々な分野のリーダーを講師として招き、専門的な話をしてもらい、生徒が自分のテーマを選ぶ際の参考とする。
- b 日時 令和元（2019）年6月13日（木）6、7限目
- c 内容 地域のリーダーから6領域に分かれてそれぞれの分野の専門的な話を聞き、質疑応答を行う。

6領域及び講師

| 領域          | 氏名（敬称略） | 所属（役職名）              | 受講者数 |      |
|-------------|---------|----------------------|------|------|
|             |         |                      | 6時限目 | 7時限目 |
| ①災害・公害からの復興 | 坂原 辰男   | 田中正造大学事務局長           | 20   | 18   |
|             | 金子 好雄   | 佐野市危機管理担当参事          |      |      |
|             | 小黒 道則   | 佐野警察署葛生交番所長          |      |      |
| ②自然・生命      | 山門 實    | 足利大学看護学部長            | 37   | 36   |
|             | 飯郷 雅之   | 宇都宮大学農学部教授           |      |      |
|             | 青柳 貴紀   | 里山農園やぎファーム 代表        |      |      |
| ③食料・エネルギー・水 | 関塚 学    | あきやま有機農村未来塾 事務局長     | 23   | 32   |
|             | 島田 嘉紀   | 第一酒造株式会社 代表取締役社長     |      |      |
|             | 河本 祥久   | 株式会社 波里 常務取締役        |      |      |
| ④環境と経済・法律   | 吉田 登志幸  | オストコーポレーション北関東 代表取締役 | 20   | 28   |
|             | 山田 実    | さの総合法律事務所 弁護士        |      |      |
|             | 野部 武典   | 味噌まんじゅう 新井屋 代表取締役    |      |      |

|                  |        |                               |    |    |
|------------------|--------|-------------------------------|----|----|
| ⑤まちづくり<br>コミュニティ | 吉澤 章裕  | 空港サービス株式会社 代表取締役              | 20 | 22 |
|                  | 池澤 智則  | さのまちづくり株式会社 事業グループリーダー        |    |    |
|                  | 菊池 輝一  | 佐野市移住・定住地域おこし協力隊員（お笑い芸人のテルさん） |    |    |
| ⑥ 人権・教育・文化       | 中山 昌樹  | 認定こども園あかみ幼稚園 理事長              | 35 | 19 |
|                  | 川久保紀久子 | 日本女性会議 2019 さの実行委員会 副実行委員長    |    |    |
|                  | 秋山 仁雄  | クリケットタウン佐野 創造プロジェクトマネージャー     |    |    |

- d 成果 地域のリーダーから専門的な話を聞くことに、知識を得ただけでなく考え方を学ぶことができた。教師からでなく実際に働いている人の言葉を聞くことができ、生徒たちは大いに感化された。講演後の情報交換会に生徒も参加し、近い距離で講演者と話すことができた。今後フィールドワークなどに行くチャンスをつかむことができた。

#### 生徒の感想

##### ①災害・公害からの復興

佐野市でも災害が起きやすいスポットはたくさんあり、もしもそれが起こった際は、自助、共助、公助のバランスのとれた対応が最も効果的なものということが分かった。

田中正造の生き方・行動から、公害に対して、どのように考えるべきか学ばなくてはいけないと思った。自助、共助、公助の精神で助け合いの心が災害時には大切なんだと感じた。

##### ②自然・生命

自分たちの身近で危険がある、がん対策のためにすべきことが分かった。がん検診の現状で、お金がかからないのに行く人が少なかったり、がん検診をしても精密検査に行かない人が多いということが分かった。とりあえず受けてみるべきだと思う。

努力することの大切さ、グローバルな視点を持つことの重要性などを学ぶことができた。課題研究を行う際、これらのことを参考にしたいと思った。

##### ③食料・エネルギー・水

農業をするにも、大変な努力が必要で、ただ勉強するだけでなく、実際に体験したり、ファームステイなどをしてみるのが大切だと思います。

3人のシンポジストの方全員が日本の食料自給率を問題にあげていて、どの企業も自給率をあげるため、自社で米や胡麻を栽培するなどの努力をされており、安い外国産のものを仕入れて製造するという私の今までの考えを翻した。

#### ④環境と経済・法律

環境と法律の分野については、将来の社会情勢に伴ってあり方が変化していくことをよく実感することができました。

入管法が改正され、今後地方でも外国人労働者が増加することが見込まれていて、栃木県も例外ではない。文化、価値観の異なる外国人労働者との労使関係は労働者だけでなく、使用者側である企業にも法的整備をすることが求められる。

#### ⑤まちづくり コミュニティ

3人の方が「地球の良いところをたくさん知り、ネガティブ（マイナス）に考えず、ポジティブ（プラス）に考えろ！」ということをおっしゃっていて、大切にしようと思いました。

空き家を活用することによって、映画やドラマを撮って、「芸能人が来た」などという自慢ができる。佐野が有名になる。同じイベントを何度もすることで、観光客の人にとっては佐野がこういう所というのが定着すると思いました。

#### ⑥ 人権・教育・文化

地域と関わることで子供の遊びが高まること、それがやがて地域の活性化、まちづくりになることを知りました。今は子供が外で遊ぶ場所が少なくなっていると聞いたことがあります。私たち若者が子供の遊べる場を作るべきだと思いました。

川が汚れてしまってかっぱがいなくなってしまったので、帰ってこれるように川辺のゴミ拾いを子供がやることを提案したということに驚きました。遊びが地域の未来を変えるのだなと思いました。



**領域1 災害・公害からの復**



**領域5 まちづくり・コミュニティ**

#### ⑤課題研究領域希望調査

- a 目的 研究領域希望を調査をし、グルーピングを実施する。
- b 日時 令和元（2019）年6月20日（木）7限目
- c 内容 6領域の中で、課題設定可能なものを選び、グルーピングを行う。
- d 成果 リーダーズ・シンポジウムを踏まえて、研究可能な課題を選び、グループを決定することができた。それぞれの班は4～5名となった。

⑥SGH リレー講座 ～クリティカルシンキング特別講義～

- a 目的 クリティカルシンキングの活用の仕方を学び、課題研究にも役立てる。
- b 日時 令和元（2019）年 6 月 22 日（土） 3、4 限目
- c 内容 帝京大学法学部准教授若山昇氏によるクリティカルシンキングの実践練習をする。ケースをいくつも考え、何が本当で何が本当と嘘を見抜く考え方を学ぶ。
- d 成果 CTP の教材である『誰でもわかるクリティカル シンキング それってホント？』の著者である若山先生に指導を受けながら、ケースを 1 つ 1 つ考えることで、クリティカル・シンキングを実践することができた。不完全なデータにだまされない、あいまいな表現にだまされないなど、課題研究で自分たちがどのようにデータなどを提示しなければならないことも学んだ。

⑦課題研究 1、2

- a 目的 クループ結成にあたり、それぞれの役割を決め、課題研究の大まかな方向性を探り、1 年間の予定を認識する。
- b 日時 令和元（2019）年 7 月 4 日（木） 6、7 限目
- c 内容 グループのメンバーをお互い知り合う。また、以前に行った KJ 法を使い、キーワードマッピング、テーマの掘り下げ（\*p 66, 67）、さらに、先行研究を見つける等を行う。ロードマップを見ることで、1 年間の予定を把握する。  
\*岡本尚也, (2017). 『課題研究メソッド』
- d 成果 グループが結成されたばかりであるが、KJ 法を用いてアイデアを出し合ったおかげで、アイスブレイクとなった。多くの意見を出し合い、話し合ったおかげで、専門用語などを理解することができた。また、カテゴリー分けをすることで、大きな方向性を見いだすことができた。さらに、ロードマップを認識し、一人ひとりの役割分担も決定することができた。

⑧課題研究 3

- a 目的 リサーチ・クエッションを考え、仮説を設定する。複数のグループ同士で、リサーチ・クエッションと仮説を発表し合い、意見交換し、内容の妥当性をみる。
- b 日時 令和元（2019）年 7 月 11 日（木） 7 限目
- c 内容 グループでリサーチクエッション（p52）を考え、選考研究等にあたりなどし、仮説の設定（p68）する。その後、リサーチ・クエッションの発表を教室内で他のグループに向かって発表する。
- d 成果 リサーチ・クエッションを多くあげ、それらについてグループで話し合うことができた。そこから仮説をたてられたグループが多かったが、さらに思考を重ねることで、本当に研究に値する仮説になっているかみる必要がある。

⑨課題研究 4

- a 目的 研究計画書を作成する。

- b 日時 令和元（2019）年7月18日（木）7限目
- c 内容 前回のリサーチ・クエッションと仮説を元に研究計画書の作成（p 94-95）をする。（研究方法の設定 p 93、FWの計画を立てる、研究計画書の発表を行ってもよい p96
- d 成果 研究計画書を立てることで、研究の概要をつかむことができた。ただし、1回目なので、何度か再考が必要になるだろう。すでに、リサーチクエッションを考え直したグループもある。フィールドワーク地の候補をあげ、質問内容を考えることまでできた。

#### ⑩フィールドワークの日

- a 目的 フィールドワーク実施日設けることで、フィールドワークの実施を促す。
- b 日時 令和元（2019）年8月1日（木）
- c 内容 事前にフィールドワーク実施計画書を提出しておき、各グループで計画を立てたフィールドワークを実施する。
- d 成果 多くのグループがこの日にフィールドワークを実施し、データや貴重な意見やアイデアをえることができた。

#### ⑪課題研究 5

- a 目的 研究内容をまとめる。
- b 日時 令和元（2019）年9月5日（木）7限目
- c 内容 フィールドワークなどで収集したデータ等をもとに研究内容をまとめる（p123）（①研究背景②研究目的・意義③研究手法④結果・考察⑤結論・今後の展望⑥引用・参考文献）
- d 成果 研究のまとめ方を知り、自分たちが実施したアンケートのなどを用い、内容をまとめることができた。ただし、内容が薄くなりがちなので担当の教師がアドバイスを加えて修正していった。

#### ⑫課題研究 6

- a 目的 発表用のパワポ作成を行い、発表に備える。
- b 日時 令和元（2019）年9月12日（木）7限目
- c 内容 研究報告書をもとに、パワポ作成をおこなう。また、発表に備えて発表原稿も考えていく。（①表紙②アウトライン③背景・意義 [問題提起] ④研究手法⑤結果・考察⑥結論・展望⑦謝辞⑧引用文献・参考文献 《p133》）
- d 成果 パワポの下書きを皆で考え、具体的な形にすることができた。PCを使っての作成は、放課後や個人とした。さらに、発表用の原稿作りをすることもできた。

#### ⑬2年領域別発表会に参加

- a 目的 2年生の発表を評価することで、自分たちの発表の参考とする。
- b 日時 令和元（2019）年9月19日（木）6、7限目
- c 内容 高2生の発表をループリックを使って、評価する。また、質疑の時に質問等を行う。
- d 成果 実際に高2生が発表を見て評価することで、自分たちが具体的に行うことを可視化することができた。

#### ⑭課題研究 7

- a 目的 発表用のパワポ作成を行い、発表に備える。
- b 日時 令和元（2019）年 9 月 26 日（木） 7 限目
- c 内容 研究報告書をもとに、パワポ作成をおこなう。また、発表に備えて発表原稿も考えていく。（①表紙②アウトライン③背景・意義 [問題提起] ④研究手法⑤結果・考察⑥結論・展望⑦謝辞⑧引用文献・参考文献 《p133》）
- d 成果 パワポの下書きを皆で考え、具体的な形にすることができた。PC を使ったのは、放課後や個人とした。さらに、発表用の原稿作りをすることもできた。

#### ⑮留学生指導 1

- a 目的 自分たちとは違った視点から研究を見ることで、研究の質を上げる。
- b 日時 令和元（2019）年 9 月 28 日（土） 10：00-12：00
- c 内容 本校にて、外国人の留学生や留学経験者の大学生 14 名に研究を説明し、アドバイスをもらい、研究の修正を行う。
- d 成果 自分たちだけでは気づかない研究の欠点や問題点を留学生たちに指摘してもらったことで、研究や発表の原稿を修正することができた。

#### 生徒の感想

留学経験者の方との話を通じて様々な意見をいただきました。お話の内容としては現在に至るまでの行動の内容、これからやることに加え、これからについての内容を一緒に考えてくれたり、アドバイスを下さいました。また、中間発表や領域別発表会までの期間を視野に入れた上で、特定の期間までにやることのすすめや、中間発表の仕方などを教えてもらい、今やることなどの方針が強固になりました。特に、失敗も成果であり、評価されると言われた時は、自分たちの研究は失敗しても次につながられるという考えを持つことができ、自信ができました。活動については、三澤さんからも「面白い」の一言をもらえたので、中間発表で自分たちの成果をしっかりと伝えられたらいいなと思いました。



留学生や留学生経験者から研究のアドバイスをもらう

#### ⑯課題研究 8

- a 目的 中間発表の原稿を準備し、発表に備える。
- b 日時 令和元（2019）年 10 月 3 日（木） 7 限目
- c 内容 中間発表を約 3 週間後に控え、各個人の準備をすすめる。（それぞれの担当

の発表原稿を作る。文章作成の基礎 p149) さらに、原稿の読み合わせをおこない、修正を加える。パワポの中間発表用資料提出を提出する。

- d 成果 各個人の時間を取ることで、自分が担当する発表の原稿を作成することができた。また、グループのメンバーと読み合わせをすることで、自分では気づかない間違い等を修正することができた。

⑰留学生指導 2 (台風のため中止)

- a 目的 中間発表でおこなう発表を見てもらい、アドバイス等してもらい、発表を修正して行く。
- b 日時 令和元(2019)年10月12日(土)
- c 内容 パワポを印刷しておき、留学生等の前でプレゼンを行い、内容や発表の仕方などのアドバイスをもらう。
- d 成果 留学生指導が2度目となるが、生徒の発表内容がほぼ固まってきたところもあり、内容だけでなく発表の仕方自体にも多くの意見がもらえ、発表を自分とは違った視点から見ることができ、修正を加えることができた。

⑱課題研究 9、10

- a 目的 中間発表の準備をおこない、アドバイスを受け、修正を加えることができる。
- b 日時 令和元(2019)年10月17日(木) 6、7限目
- c 内容 中間発表準備のため、実際に他のグループの前で発表を行い、意見やアドバイスをもらう。(教室内で発表をし、他のグループからのチェックを受ける。p135)
- d 成果 他のグループや教員の前で発表することで、矛盾点や不備な点に気づくことができ、修正に繋がられた。中間発表が迫っているので、気持ちを盛り上げることができ、練習に励む雰囲気を作ることができた。

⑲課題研究 11、12

- a 目的 前回に続き中間発表の準備をおこない、アドバイスを受け、修正を加えることができる。
- b 日時 令和元(2019)年10月24日(木) 6、7限目
- c 内容 中間発表準備のため、実際に他のグループの前で発表を行い、意見やアドバイスをもらう。(教室内で発表をし、他のグループからのチェックを受ける。p135)
- d 成果 他のグループや教員の前で発表することで、矛盾点や不備な点に気づくことができ、修正に繋がられた。中間発表が迫っているので、気持ちを盛り上げることができ、練習に励む雰囲気を作ることができた。

⑳課題研究中間発表

- a 目的 大学の教員から専門的な指摘やアドバイスをもらうことで、発表の質を上げる。
- b 日時 令和元(2019)年10月26日(土)【宇都宮大学】
- c 内容 宇都宮大学の教員の前で、研究発表を行い、専門的な指摘やアドバイスを



もらう。評価の際に本校作成のルーブリックを使用し、求めている項目を示す。

ルーブリック中の4つの評価項目

| Literacy<br>調査力 | Solving<br>Problems<br>提言力 | Diversity<br>異なる考え方を<br>生かす力 | Presentation<br>表現力 |
|-----------------|----------------------------|------------------------------|---------------------|
| ①調査力            | ①地域性                       | ①協働性                         | ①分かりやすい論理性          |
| ②体験から学ぶ力        | ②持続可能性                     | ②つながる力、巻き込む力                 | ②伝える工夫と意欲           |

- d 成果 外部の専門的な知識を持つ人からのアドバイスをもらうことで、もう1度自分たちの研究を見直すことができた。データ不足や論理の破綻や様々な指摘を受けることができた。これを受けて最終的な発表を成功させてもらいたい。

#### 生徒の感想

宇都宮大学の中間発表を通して、現在の研究の良い点や改善すべき点を把握することができた。良い研究にするために必要となる具体的なデータや詳しい流れを知ることができた。私たちのグループでは廃校をテーマとして課題研究を進めている。今までの研究では廃校は取り壊しに多額の費用がかかったり景観を害する存在になってしまうという理由で、地域活性化のためにも活用すべきだと考えてきた。しかし、今回の中間発表で地域住民の多くは賛成するかもしれないが、市の行政の立場になってみると経済的に取り壊した方がよいことが分かった。また、仮に廃校を活用したとして、どのように何を目的として活用するのかを明確にすべきだということが分かった。今回の中間発表を通して自分たちの研究をどのように進めていくか、また、そのために具体的に何を調査し、どんなデータが必要となるのかをしっかりと調べていきたい。これからは、様々な視点から研究を進めていきたいと思う。

基本的な調べが足りなかった。実験方法、使用する器具、結果から得た考察まで、「何故そうなるのか」という根拠を自分たち自身でしっかり再確認し、実験に関わる知識や情報は抜かりなく調べておく必要があると思った。また、スライドに関しても「赤と緑色の文字は人によっては見分けられない人がいるため一緒に使ってはいけない」「タイトルをみただけで人が発表に惹き込まれるような面白いキャッチフレーズをつけるとよい」などどいったたくさんアドバイスを頂くことができた。指摘されて初めて気づくことがほとんどで、研究の方針も発表内容もスライドも盲点だらけだったなど感じた。領域別発表会まであと少しあるため、今回のアドバイスと自らの反省を生かしてもっと良い発表にしたい。



2019年度佐野高校 SGH 中間発表会一覧

| No. | 学部        | お名前   | 時間          | 教室   | グループ       |
|-----|-----------|-------|-------------|------|------------|
| 1   | 国際学部      | 栗原俊輔  | 13:00-14:30 | 4B51 | 3, 4, 32   |
| 2   | 国際学部      | 藤井広重  | 13:00-14:30 | 4B55 | 13, 16, 26 |
| 3   | 農学部       | 飯郷雅之  | 13:00-14:30 | 4A41 | 9, 10, 11  |
| 4   | 地域デザイン科学部 | 石井大一朗 | 13:00-14:30 | 4A42 | 5, 24, 25  |
| 5   | 地域デザイン科学部 | 大森玲子  | 13:00-14:30 | 4B41 | 6, 12, 23  |
| 6   | 地域デザイン科学部 | 長田哲平  | 13:00-14:00 | 4B42 | 1, 2       |
| 7   | 地域デザイン科学部 | 中村祐司  | 13:00-14:30 | 4B54 | 19, 21, 30 |
| 8   | 教育学部      | 石塚諭   | 13:00-14:30 | 4A43 | 7, 8, 31   |
| 9   | 教育学部      | 小野瀬善行 | 13:00-14:30 | 4B52 | 27, 28, 29 |
| 10  | 教育学部      | 陣内雄次  | 13:00-14:30 | 4B53 | 18, 20, 22 |
| 11  | 工学部       | 大庭亨   | 13:00-14:30 | 4A44 | 14, 15, 17 |

②課題研究 1 3、1 4 中間発表振り返り、領域別発表会の準備

- a 目的 宇都宮大学における中間発表を振り返り、さらに質の高い研究発表にしていく。
- b 日時 令和元（2019）年 11 月 7 日（木）6、7 限目
- c 内容 中間発表を踏まえての修正を行う。指摘を記録したものをもとに、自分たちの発表を改善する。そして、最終的な発表である領域別発表会の準備をする。（せっかくの指摘を上手く生かすこと。柔軟に対応せよ）原稿の読み方、スライドの流し方など最終的な調整をする。
- d 成果 宇都宮大学において、多くの方から数多くの指摘を受職することができた。多くのアドバイスを生かし、修正することができた。スライドの文字の大きさなど簡単なものから、研究テーマの根幹に関わるものまで様々あったが、すべてとは言えないが多くを修正することができた。長期にわたり準備してきた研究発表の最後の準備となり、領域別発表会の準備を整えることができた。

②高1 SGH 領域別発表会

- a 目的 長期にわたり携わってきた課題研究の集大成である領域別発表会で、それぞれの生徒が自分の持てる力を発揮し、発表し、どの程度の力が着いたか検証する。
- b 日時 令和元（2019）年11月14日（木）5、6、7限目
- c 内容 3教室に分かれ、領域別発表会を行った。この中から1・2年成果発表会に進む3チームを選考する。

発表手順

- 1 はじめのことば
  - 2 発表（1グループ5分、6分で打ち切る）タイマーを使用する。
  - 3 質疑（3～5分）質問が出ない場合は、指名して質問させる。
  - 4 1グループ毎にルーブリック記入、回収をする。（自己評価もする）
  - 5 教員による全体講評
  - 6 終わりのことば
- d 成果 長期にわたっての研究の成果を各グループが発表することができた。ルーブリックによって、評価のポイントが明らかになっており、どのようなポイントに気をつければ良いのか理解しての発表となった。また、生徒同士もルーブリックを用いてピアエバリュエーションを行うことができた。多くの生徒は、発表力を伸ばすことができた。

領域別発表会会場

| No. | 研究グループ   | 会場    | 審査員（○チーフ） |    |     |
|-----|--|-------|-----------|----|-----|
| 1   | 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28<br>(11グループ) | 選択教室3 | ○吉永       | 小菅 | 赤堀  |
| 2   | 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 29<br>(10グループ)            | 選択教室4 | ○青山       | 戸田 | 片柳  |
| 3   | 1, 2, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 30, 31, 32<br>(11グループ)   | 英語演習室 | ○木村       | 島田 | 大嶋浩 |

③課題研究15、16 成果発表会の準備

- a 目的 成果発表会の準備を整える。
- b 日時 令和元（2019）年12月5日（木）6、7限目
- c 内容 前回に引き続き、代表班はステージ発表の準備にあたり、その他の班はポスターセッションの準備にあたる。
- d 成果 代表班は、発表時の声の抑揚に気を付けるなど細かいところまで気を配って準備をすることが出来た。その他の班は、ポスターセッションのためのポスターを作成することができた。ただし、すでに作成してある枠を使用したので、ポスターのストーリー性が弱いという面は見られた。

④課題研究17 成果発表会の準備

- a 目的 成果発表会の準備を整える。

- b 日時 令和元（2019）年 12 月 12 日（木） 7 限目
- c 内容 前回に引き続き、代表班はステージ発表の準備にあたり、その他の班はポスターセッションの準備にあたる。
- d 成果 代表班は、発表時の声の抑揚に気を付けるなど細かいところまで気を配って準備をすることが出来た。その他の班は、ポスターセッションのためのポスターを作成することができた。ただし、すでに作成してある枠を使用したので、ポスターのストーリー性が弱いという面は見られた。

②⑤ 高 1 ・ 2 年 成 果 発 表 会

- a 目的 代表班はステージ発表を、その他の班はポスターセッションを行い、質の高い発表をする。また、2 年生や他の発表を聞いて、ループリックを用いて評価することができるようにする。
- b 日時 令和元（2019）年 12 月 13 日（金）
- c 内容 高 1 ・ 2 年 成 果 発 表 会 （ 本 校 体 育 館 ： 代 表 グ ル ー プ 、 他 は ポ ス タ ー プ レ ゼ ン ）
- d 成果 2 年生の質の高い発表をループリックを使って、評価することが出来た。また、代表班は「伝える工夫と意欲」の項目の評価を押し並べてあげられた。また、その他のポスターセッション発表を行ったグループは、質問者に対して、丁寧に回答するなどを行うことが出来た。

②⑥ 課 題 研 究 1 8 1 ・ 2 年 成 果 発 表 会 振 り 返 り

- a 目的 成果発表会の振り返りを行い、発表の仕方やポスターの作成の仕方を磨く。
- b 日時 令和 2 （2020）年 1 月 9 日（木） 7 限目
- c 内容 領域別発表会の振り返りを行い、次の発表に生かせるものを認識しておく。発表の原稿や発表の仕方、ポスターを作成の仕方を次回に向けて考える。
- d 成果 発表の振り返りを行うことで、プレゼンテーションスキルをアップさせた。

②⑦ 課 題 研 究 1 9 個 人 の ま と め 1

- a 目的 地域課題研究の個人のまとめをすることで、自分の研究をよく理解し、人に伝えられるようにしておく。
- b 日時 令和 2 （2020）年 1 月 16 日（木） 7 限目
- c 内容 長期に渡る課題研究のまとめを個人で行う。自分なりのまとめ方をすることで、研究をよく理解しておく。
- d 成果 グループの研究を個人でまとめることで、研究に対する理解が深まり、次の研究の基礎となった。

②⑧ 課 題 研 究 2 0 個 人 の ま と め 2

- a 目的 地域課題研究の個人のまとめをすることで、自分の研究をよく理解し、人に伝えられるようにしておく。
- b 日時 令和 2 （2020）年 1 月 16 日（木） 7 限目
- c 内容 長期に渡る課題研究のまとめを個人で行う。自分なりのまとめ方をすることで、研究をよく理解しておく。
- d 成果 グループの研究を個人でまとめることで、研究に対する理解が深まり、次の研究の基礎となった。

⑳地域課題研究 2 1 来年度の異文化研究の準備

- a 目的 来年度の異文化研究に備え、another country を考えて異文化研究の方向性を探る。
- b 日時 令和 2 (2020) 年 1 月 16 日 (木) 7 限目
- c 内容 来年度の異文化研究のために、研究する候補の国を考え、異文化研究の方向性を探る。
- d 成果 異文化研究のために、参考とする外国を提案しているので次年度の研究の手助けとなる。来年度は 7 月が中間発表であり、9 月には領域別発表会となるので、1 年の時よりも早い異文化研究が求められる。その準備をすることができた。

㉑海外グローバル課題研究コンテスト

- a 目的 1 年生の課題研究を継続研究し、英語で発表を行うことでカナダでの発表の準備を行う。
- b 日時 令和 2 (2020) 年 2 月 25 (火)
- c 内容 1 年生の課題研究を海外グローバル研修に行く 9 ループが引き継ぎ、さらに研究を重ね、英語での発表を行った。
- d 成果 長期にわたって研究してきた課題を継続で研究する者が少なくとも 1 名はいる中での研究となり、それまでとはまた違った視点で研究を継続し、質を高めた研究発表となった。カナダでの発表も期待される。

㉒課題研究 2 2 次年度のグローバル課題研究の準備

- a 目的 今年度の地域課題研究を振り返り、来年度のグローバル課題研究の準備をする。
- b 日時 令和 2 (2020) 年 2 月 28 日 (木) 7 限目
- c 内容 2 年生ではグローバル課題研究となるが、その前段階として台湾 + my another country の候補を探し、どのような継続研究が可能か探る。
- d 成果 来年度のグローバル課題研究の下調べをすることが出来た。来年は 7 月が中間発表となり、さらに台湾での英語発表も控えており、9 月には領域別発表会となるので、1 年の時よりも早い課題研究が求められる。その準備をすることができた。